

⑥ 国際理解教育として、国際交流に学校全体で取り組む研究

(1) 英語クラブの設立及び活動

・研究内容

<設立>

平成14年3月に ALT と協力し、新年度に英語クラブを結成する準備を進める。英語のゲーム、歌、クッキング、スピーチなどを通し、楽しみながら実用的な英語を身につける事を目標に、加入呼びかけのプリントを全校生を対象に配布した。9名の生徒が呼びかけに答え、新年度より同好会として、発足することにした。新入生のオリエンテーションで英語クラブの説明を行い、17名の加入があった。生徒会の規約に添って、同好会設立趣意書を提出し、正式に英語クラブとして認められた。

<活動>

毎週水曜日週1回 LL 教室で実施している。他の部活動と兼ねたり、3年生の引退もあり、常時活動している生徒は15名である。これまでの活動内容としては、次のようなものがあげられる。スクラブルゲームを中心とした英語のゲーム、クッキング2回、スピーチ、ダーウィン高校生との交流、ハローウィンパーティー等である。スクラブルゲームでは、英語の語彙が増える楽しさを知り、他の活動についても言えることであるが、リラックスした雰囲気の中で自然に英語を話せる事が大きな成果である。クッキングではスコーン、ミンスパイを作り、英国の食文化を学ぶと共に、生きた英語でのコミュニケーションを楽しみ、リスニングの力の向上を図った。スピーチは、修学旅行に行った2年生の体験発表があり、英語暗唱大会参加者の発表を聞いた。ダーウィン高校生来校の際には、放課後の部活動に参加してもらい、自己紹介ゲームやスクラブルゲームを通し、それまで培った会話力を駆使して交流した。

・成果

普通の授業とは異なる楽しい雰囲気の中で、ALT や外国人講師と身近に接しながら実践的な英語力を修得させることができた。メキシコからの留学生もクラブ活動に加わり、外国語としての英語を使い交流を深める事ができ、生徒の英語観を広くした。

(2) 国際教育委員会活動の活性化

・研究内容及び成果

<活性化を図るにあたって>

委員会活動の活性化を図る為に、4月当初、各 HR 担任に活動内容を明示したプリントを配布し、選出に対しての協力を依頼した。各クラス(全学年)男女1名計36名の委員で構成される。第1回委員会において活動内容を再度確認し、役割の重要性を意識させた。

<活動>

日常的には、毎週木曜日に行われる「English Day」の[Evaluation Sheet]を各自の HR で配布回収し、昼休みの英語によるインタビューには、積極的に答え、範を示した。6月の文化祭には JICA から研修員を招待し、日ごろ接する事の少ないアジア、アフリカの国々の人々と交流し、英語は単なる教科の1つであるだけでなく、コミュニケーションの手段であることを実感し、英語学習の目的を再認識した。オーストラリアのダーウィン高校への派遣生の壮行会、ダーウィン高校生の歓迎会を企画運営し、司会進行は委員長が全て英語で行った。本人にとっても全校生にとっても初めての体験であったが、校内の英語化には大いに貢献した。11月には、「International Day」を企画し、筑波大学で学んでいる東南アジアからの学生を6名招聘した。1、2学年のクラスを訪れ、1時間それぞれの国の文化、歴史、言語をパワーポイントを使っての英語での紹介で、民族衣装を身につけて行われたプレゼンテーションは臨場感があり、また、司会進行を務めた委員会の生徒たちは自分たちの任務に自信と誇りが持て、この得難い貴重な体験を通して、自分たちの将来に対する夢も大きく膨らんだようである。

(3) 海外派遣及びオーストラリア・ダーウィン高校生の受け入れ

・研究内容及び成果

<海外派遣>

平成16年7月23日～8月9日まで18名の生徒をオーストラリアのダーウィンに派遣した。海外派遣事業は21回目であり、ダーウィン高校との交流は8回目であった。ホームステイをしながらホストブラザーやシスターと地元の高校に通学し、異文化交流を行い実践的な英語力を身につけると共に国際的な視野を広